

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24310183

研究課題名(和文) 20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動

研究課題名(英文) Chinese Indonesians on the Move within the International Relations of 20th Century Asia

研究代表者

北村 由美 (Kitamura, Yumi)

京都大学・その他部局等・准教授

研究者番号：70335214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インドネシア華人とその再移住の調査を通じて、脱植民地化、国民国家形成、冷戦といった20世紀のアジアの国際関係をとらえなおすことを目的とし、オランダ、中国、香港、台湾、マレーシア、日本などインドネシア華人の移動先において調査を行った。本研究によって、第二次世界大戦後から21世紀初頭にいたるインドネシア華人の国際移動をめぐる複雑な実態が明らかになるとともに、インドネシアが民主化とグローバル化を迎えた現代において、各地に定住しているインドネシア華移民が、出身国であるインドネシアと新たに構築しつつある関係についても一部明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The focus of the project was to reflect on international relationships in 20th century through the life history of Chinese Indonesians who migrated to other countries as the result of domestic and international affairs. Though the consequences of the history do not manifest themselves in the same way, the process of decolonization and Cold War era political processes had implications for Chinese diaspora in Southeast Asia, including the Chinese Indonesians. However, there was a gap between the studies of Chinese Overseas and efforts to understand individual experiences as reflections of historical events. Through the project, the members conducted extensive fieldwork in the destination of Chinese Indonesians such as Netherlands, China, Hong Kong, Taiwan, Malaysia, Japan. The outcome of the research projected not only the details of ones migration in relation with the international politics, but how the earlier migrants has developed new ties with Indonesia in the era of globalization.

研究分野：地域研究

キーワード：インドネシア 華僑・華人 国際移動 脱植民地化 権威主義体制 グローバル化 ライフヒストリー

## 1. 研究開始当初の背景

### 【当初の研究状況】

人の国際移動を対象とした研究は、移民(史)研究、難民研究、ディアスポラ研究、華人研究など様々なアプローチがある。これらの多様な移動研究の中で、特に東南アジアを中心とする華人研究においては、華人としてのアイデンティティの有無に議論を収斂させる傾向や、近代国民国家の境界性と華人の越境的活動との対峙を基本的分析枠組みとした上で、華人像の本質化、ないしは華人に「自由な個人」像を見出す傾向がみられた。その結果として、華人の移動が注目を集めながらも、そこから現代国際政治史を問い直す視点が抜け落ちてきた。

本研究では、このような従来の研究群への批判から、移動する華人個人個人の視点から現代アジアの国際政治史の動態を描き出すことを射程とした。

### 【研究対象をめぐる背景】

本研究ではインドネシア華人の移動を第二次世界大戦以降のアジアの国際関係を顕著の映し出している対象として選んだ。インドネシアは、第二次世界大戦後、植民地体制左翼ポピュリズムによる容共権威主義体制 軍部主導の反共権威主義体制 民主主義体制、という劇的な体制転換を経験してきた。これは程度の差こそあれアジア諸国に共通する点であるが、特にインドネシアにおいてより明瞭に認めることができる。

このようなインドネシアの体制転換はその都度華人の移動を大きく左右してきた。たとえば19世紀後半から20世紀初頭にかけての中国からインドネシアへの移動、1950-60年代のインドネシアから(近隣国や中国、オランダ等へ)の亡命、さらに1990年代以降のオーストラリアや日本、アメリカへの留学や再移住、新華僑のインドネシアへの流入などが挙げられる。これらの華人の移動は、インドネシアの国内政治にかぎらず国際政治経済の動向とも密接に連動してきた。

なお、本研究では第二次世界大戦以降という長期間にわたるインドネシア華人の国際移動のもつダイナミズムをとらえること必要があったため、特に初期の移動の当事者に対する調査は、喫緊の課題であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、インドネシア華人とその再移住の調査を通じて、脱植民地化、国民国家形成、冷戦といった20世紀のアジアの国際関係をとらえなおすことを目的としていた。個々の移動するインドネシア華人の視点から近現代史を再検討することによって、一国のナショナル・ヒストリーや政策分析からは浮かびあがらない、イデオロギーや経済のグローバル化と移動の関連とダイナミズムが明らかになることを目指した。

具体的には、植民地体制からの脱却や、その後権威主義体制下における対華人政策の

強化など、数多くの転換期を経る中で、定住していたインドネシアを離れヨーロッパ・オーストラリアや中国・香港・台湾に渡った華人のこれまで言説化されることのなかったナラティブを分析することで、当事者の経験世界から、膠着した歴史像を逆照射することを試みた。

研究プロセスにおいては、以下の4点の究明を行った。

- A) アイデンティティに還元される本質主義的華人論の批判的検討
- B) 植民地期から現在にいたる東南アジアと中国の関係を移動の実態から解明
- C) 冷戦下における国際移動の理由と実態をインドネシアにおける国内政治との関係から解明
- D) 移動元と移動先のそれぞれにおいて所属する社会階層の差が、移動のパターンや移動後の生活・思考に与えた影響を実証的に検証

## 3. 研究の方法

本研究では、インドネシア華人の移動を二期にわけ、それぞれの時期に特徴的なインドネシア華人の移動を移動先におけるインタビュー調査と文献調査によって明らかにした。第二次世界大戦後から冷戦期を第1期とし、主に家族や個人による国際移動を検討した。この時期の移動先としては、オランダ、中国、台湾、香港が挙げられる。さらに、冷戦後期から現代にかけてグローバル時代の移動を第2期とし、ブローカーによる結婚や留学など、組織を媒介して行われた国際移動を検討した。この時期の移動先としては、マレーシア、シンガポール、北米、オーストラリア、台湾、日本などが挙げられ、うちマレーシア、台湾、日本を本研究の調査対象とした。

調査に際しては、すでに移民先での生活が長い調査対象に対するインタビューを円滑に行うために、代表者をはじめとするインドネシア研究者に加えて、移民先における調査経験が長い分担者によるチームで調査を取り入れた。インドネシア(2012年)、香港(2013年度、2015年度)台湾(2014年度)、マレーシア(2015年度)の合同調査を通して情報と課題と共有しつつ、メンバー各自がそれぞれの調査地で研究を深める形で遂行した。

## 4. 研究成果

本研究メンバーによる個別の研究成果は次項「5. 主な研究発表論文等」に挙げられているとおりである。研究プロジェクト全体を通して得られた調査結果のうち4点を以下に挙げる。

- A) オランダへのインドネシア華人移民に関しては、移民の時期に関わらず、オランダ語能力をはじめとする植民地からの文化資本を活用して移動したグ

ループ、1965年以前に旧社会主義国へ赴任や留学をしていた人々が帰国できずに政治難民としてオランダにたどりついたグループ、1965年以降の権威主義体制期に留学生として移動したケースの三者がみられた。第1のグループと、第2・第3のグループは交友関係が一致しておらず、脱植民地期から権威主義体制期にかけてインドネシアの政治転換が社会に浸透していく過程において、教育制度や思想の浸透の濃淡が、移動後の人生にも反映されていることが分かった。

- B) 香港におけるインドネシア華人に関しては、1930年代以降断続的に流入した移民グループと1950年代から1960年代にかけてと中国「帰国」した後、1970年代に中国から香港に移動したグループがあり、台湾と同様に自由中国として位置付けられていた点と、シンガポール同様インドネシア華人のビジネスのハブであった点が、香港におけるインドネシア華人の層を厚くしている。その結果、さまざまなインドネシア華人団体が形成されており、1998年にインドネシアが民主化した以降は、インドネシアとの交流も行っている。
- C) 香港と台湾は、いずれも1980年代以降、東南アジアから家事労働者の受け入れを行ってきた。その際に、「帰国華僑」として先行して定着したインドネシア華人が、インドネシアからの家事労働者（華人でない場合が多い）を好んで受入れたり、インドネシア人家事労働者のニーズに即した商店を経営していたり、ゆるやかな関わり合いを持っていることが分かった。
- D) マレーシアのペナンとインドネシアのメダンはマラッカ海峡をはさんで、ともに福建系の華人が多く、古くから両岸を行き来してきた。1963年にスカルノが「マレーシア対決」を宣言した後は、以前ほど行き来が自由ではなくなったが、1998年にインドネシア各地で反華人暴動がおこった際に、対岸のメダンより大量の華人女子が留学や結婚という手段で避難してきており、その後定着した一部のインドネシア華人女性らによって、インドネシア人家事労働者を派遣するビジネスや、インドネシアからの医療ツーリズムを支えるビジネスが行われていることが分かった。

これらの調査結果から得られた知見としては次の2点である。

- A) 移動先の選択は、従来の研究で強調されてきたアイデンティティの所在による選択というよりも、それぞれの移動先との第二次世界大戦以前からの結びつきと、第二次世界大戦以降の国内・国際政

治の影響を受けて決断された場合が多い。

- B) 現地に定住したインドネシア華人は、グローバル化時代に入った現在、定住先においてインドネシアからの家事労働者や医療ツーリズム参加者が増加する中で、新たなビジネスチャンスを見出している。この点については、今後より詳細に調査する必要がある。

なお、プロジェクト全体の成果は、報告書（次項5.[図書]）として刊行し、大部分はウェブサイトでも公開した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計32件)

北村由美、改革期インドネシアにおける華人出版物、華僑華人研究、査読有、9、2012、51-71。

北村由美、西への道 オランダにおけるインドネシア出身華人の軌跡、地域研究、査読有、14(2)、2014、219-239。

Kitamura Yumi. Long Way Home: The life history of Chinese-Indonesian migration in the Netherlands. *Wacana*. 査読有、18(1)、2017、24-37。

片岡樹、土地神が語るエスニシティと歴史 南タイ・プーケットの本頭公崇拝とその周辺、南方文化、査読有、39、2012、97-116。

Kataoka, Tatsuki. Introduction:

De-institutionalizing Religion in Southeast Asia. *Southeast Asian Studies*, 査読有、1(3)、2012、361-363。

Kataoka, Tatsuki. Religion as Non-religion: The Place of Chinese Temples in Phuket, Southern Thailand. *Southeast Asian Studies*, 1(3), 査読有、2012、461-485。

片岡樹、先住民か不法入国労働者か？ タイ山地民をめぐる議論が映し出す新たなタイ社会像、東南アジア研究、査読有、50(2)、2013、239-272。

Kataoka, Tatsuki. Becoming Stateless: Historical Experience and Its Reflection on the Concept of State among the Lahu in Yunnan and Mainland Southeast Asian Massif. *Southeast Asian Studies*. 査読有、2(1)、2013、69-94。

片岡樹、想像の海峡植民地 現代タイ国のババ文化にみる同化と差異化、年報タイ研究、査読有、14、2014、1-23。

片岡樹、中国廟からみたタイ仏教論 南タイ、プーケットの事例を中心に、アジア・アフリカ地域研究、査読有、14(1)、2014、1-42。

片岡樹、タイ国における中国系善堂の宗教活動 - 泰国義徳善堂に見る中国宗教、タイ仏教、そして世俗 -、東南アジア研究、査読有、52(2)、2015、172-207。

片岡樹、功德の明朗会計 タイ国の中国系善堂の事例から、長谷川清・林行夫編『積

徳行と社会文化動態に関する地域間比較研究 東アジア・大陸東南アジア地域を対象として、CIAS(京都大学地域研究統合情報センター)ディスカッションペーパー46、査読無、2015、59-67.

片岡樹、架空の識字カー現代タイ国における漢文經典の知識をめぐる一、華僑華人研究、査読有、13号、2016、7-26.

芹澤知広、東南アジア華僑華人社会における女性出家僧についてのノート、総合研究所所報、査読無、21、2013、25-36.

芹澤知広、香港の中国語新聞『大公報』の1959年の記事に見るインドネシア華人の移動、総合研究所所報、査読無、22、2013、49-72.

芹澤知広、広東文化としての中国菓草茶、総合研究所所報、23、査読無、2015、55-67.

芹澤知広、ベトナム国チャビン省チャウタン県の関帝廟の盂蘭盆に見る華人の文化変容、華僑華人研究、査読有、13号、2016、51-60.

Tsuda, Koji. The legal and cultural status of Chinese temples in contemporary Java, *Asian Ethnicity* 13(4)、査読有、389-398、2012.

DOI: 10.1080/14631369.2012.710076

津田浩司、インドネシアにおける「中華の宗教」の現在 2000年代以降の体系化の動向を中心に、華僑華人研究、9、査読有、72-94、2012.

津田浩司、「誰にとっての英雄か」から始まる探求、民博通信、146、査読有、26-27.

②津田浩司、書評：北村由美『インドネシア創られゆく華人文化 民主化以降の表象をめぐる』明石書店、2014、アジア経済、55(4)、査読有、127-130、2014.

③Tsuda, Koji. 2015. Systematizing 'Chinese Religion'. The Challenges of 'Three-teaching' Organizations in Contemporary Indonesia. *DORISEA Working Paper Series* 18, 2015, 査読有、1-15.

④中谷潤子、EPA インドネシア人看護師の滞日および帰還へのプロセス - ライフストーリーより -、大阪産業大学論集、査読無、19号、2013.

⑤中谷潤子、インドネシア華人の「自分は何者か」という語り - ライフストーリーより、華僑華人研究、12、査読有、2015、45-54.

⑥中谷潤子、ポストスハルト期におけるインドネシア華人のアイデンティティ - スラバヤでのインタビュー調査より、大阪産業大学論集、査読有、26、2015、53-67.

⑦奈倉京子、帰国華僑の「檔案」資料から見る「僑」の含意 『印聯会訊』に基づく歴史人類学的考察、華僑華人研究、査読有、10、2013、74-90.

⑧奈倉京子、中国系移民の複合的な「ホーム」あるミャンマー帰国華僑女性のライフストーリーを事例として、地域研究、査読有、2、2014、196-215.

⑨奈倉京子、2016、中国系移民の故郷 帰国華僑の中国認識、文化人類学、査読有、80(4)、

2016、615-634.

⑩奈倉京子、パリに移住した中国系インドシナ難民の中国認識—非公式的な中国語教育の事例から—、国際関係・比較文化研究、査読無、15(1)、2016、77-98.

⑪奈倉京子、マレーシア華人のアイデンティティの変遷、国際関係・比較文化研究、査読無、15(2)、2017、75-89

⑫横田祥子、台湾結婚事情、アジ研ワールド・トレンド8月号(特集途上国の出会いと結婚)、査読無、226、2014、10-13.

⑬横田祥子、インドネシア華人女性の国際結婚を通じた世帯保持：西カリマンタン州シンカワン市の事例から、華僑華人研究、13号、査読有、2016、27-44.

[学会発表](計30件)

北村由美、「西」への道 - 在オランダインドネシア華人とインドネシア」(パネル：インドネシア華人の国際移動と20世紀アジアの動態)、東南アジア学会第89回研究大会、2013年6月2日、鹿児島大学郡元キャンパス.

Kitamura, Yumi. Introduction on Life History Project of Chinese Indonesians. *Seminar on Chinese Indonesians. Indonesian Institute of Sciences*, August 2012. Jakarta, Indonesia.

Kitamura, Yumi. Chinese Indonesians in the Dutch Metropole. Panel Title: Under the 'Specter of Comparisons': Southeast Asia Chinese and Their Trajectories". *Association for Asian Studies Annual Conference*. March 29, 2014. Philadelphia Marriott, PA, USA.

Kitamura, Yumi. Negotiation and Mobilization of Chinese soft power in Indonesia Final Workshop on China's Footprints in Southeast Asia. *National Historical Commission of the Philippines*, August 5, 2014. Manila.

Kitamura, Yumi. Re-questioning the "Chineseness" through narratives of the Chinese Indonesians in the Netherlands. *Southeast Asian Studies Regional Exchange Program*. November 4, 2015. Gajah Mada University, Yogyakarta, Indonesia.

Kitamura, Yumi. Chinese Indonesian in the Wave of Charismatic Renewal. *Beyond the National: The Regional and Transnational Trajectories of Chinese Indonesians*. September 10, 2016. Institute of Southeast Asian Studies, Singapore.

Kataoka, Tatsuki. Millenarianism, Ethnicity and the States: Khruba Bunchum Worship among the Lahu in Thailand and Burma. *Interface, Negotiation, and Interaction in Southeast Asia. Proceedings of the Asian CORE Workshop*. Feb. 22-23, 2013. Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University.

片岡樹、南タイのパバ文化復興運動にみる『マレーシア性』、日本マレーシア学会、第22回研究大会、2013年12月14日、同志社大学.

Kataoka, Tatsuki. A New Hybrid Chinese Used in Mahayana Chanting among the Chinese Immigrants of Thailand. *The 6th International Conference of Institutes and Libraries for Chinese Overseas Studies*, Oct. 15-18, 2015. Huaqiao University, China.

片岡樹、タイにおける漢文経典朗誦、東南アジア学会第95回研究大会(2016.6.4-5 於大阪大学)。

Kataoka, Tatsuki. Straits Chinese outside the Straits: Baba-ness Reflected in Epigraphs of the Baba Cemeteries in Thailand. *The 9th International Conference of the International Society for the Study of Chinese Overseas*, July 6-8, 2016, University of British Columbia.

Serizawa, Satohiro. The Department Stores for Chinese Products and the Returned Overseas Chinese from Indonesia to Hong Kong. *Seminar on the Chinese Indonesians at the Research Center for Society and Culture*, August 31, 2012. Indonesian Institute of Sciences, Indonesia.

芹澤知広、香港の新聞『大公報』に見る、1960年のインドネシア華人「奈良大学図書館企画展示「香港の新聞『大公報』とその周辺」関連研究会、2012年12月15日、奈良大学。

芹澤知広、香港の中国製品デパート『国貨公司』とインドネシアからの帰国華僑(パネル:インドネシア華人の国際移動と20世紀アジアの動態) 東南アジア学会第89回研究大会、2013年6月2日、鹿児島大学郡元キャンパス。

Serizawa, Satohiro. The Department Store for Chinese Products and the Returned Overseas Chinese from Southeast Asia to Hong Kong. *The 11 Annual Conference of The Asian Studies Association in Hong Kong*, April 3, 2016, Kobe University.

芹澤知広、一九五零年代之前越南南部華人宗教和中国本土關係:基督宗教和佛教為中心、「跨國危機的對應:1850-1950 東亞港口城市華人的社會經濟生活」國際會議、2016年6月8日、香港中文大學歷史系。

Tsuda, Koji. Research on 'Chinese Traditional Religion' in Post-Soeharto Indonesia." *Seminar on Chinese Indonesians*. August 31, 2012. The Research Center for Society and Culture, The Indonesian Institute of Sciences (PMB-LIPI), Indonesia.

津田浩司、東南アジアの華僑—「華人らしさ」をめくって、まちだ市民国際学—今、躍動する東南アジア、2012年6月7日、まちだ市民大学 HATS (招待講演)。

Tsuda, Koji. 'Chinese Religion' in Modern Indonesia: Focusing on the Trend Toward Systematization in the Post-Soeharto Era. *DORISEA (Research Network "Dynamics of Religion in Southeast Asia") Mid-term conference 2013*, June 28, 2013. University of Gottingen, Germany.

津田浩司、津田浩司、インドネシア華人の「帰国」をめぐる言説空間 *Star Weekly 誌* (1958年~60年)の分析を中心に、東南アジア学会2015年度第3回関東例会・6月例会(シンポジウム:インドネシアと香港のメディアにみられるインドネシア華人の「帰国」)、2015年6月27日、東京外国語大学本郷サテライト。

②中谷潤子、若手インドネシア華人のアイデンティティ変容 - 時代と世代に注目して、2014年度日本華僑華人学会研究大会、2014年11月30日、早稲田大学早稲田キャンパス。

②Nakatani, Junko. Identity of Young Chinese Indonesians in Japan in the Era of Globalism. *Celebrating 20 Years of SEASREP and Southeast Asian Studies, 2015 Southeast Asian Studies Regional Exchange Program*, November 4-5, 2015. University of Gajah Mada, Indonesia.

16年9月10日、インドネシア・バリ。

③奈倉京子、中国(大陸)のインドネシア帰国華僑の生存環境の変化と間地域的サークルの形成(パネル:インドネシア華人の国際移動と20世紀アジアの動態) 東南アジア学会第89回研究大会、2013年6月2日、鹿児島大学郡元キャンパス。

④奈倉京子、華僑・華人から国家・民族を問い直す、国際シンポジウム「戦後の意味:アジアにおける1945年とその後」、2015年4月11日12日、愛知大学車道校舎コンベンションホール。

⑤Nagura, Kyoko. Changes in "Qiaoxiang": The Expansion of Chinese Returnees' Network and the Recent Mobility of the New Generation of Overseas Chinese. *中国社会学会*, 2015年7月11日、長沙大学。

⑥奈倉京子、从帰僑網絡的拡大与華人新生代的新的移動看『僑郷』的变化(帰国華僑ネットワークの拡大と華人新世代の新たな移動からみる「僑郷」の変化、国際シンポジウム「国共内戦与冷戦時期的馬華文学、芸術、語言、歴史」、2016年10月28日、立教大学。

⑦横田祥子、在台インドネシア華僑華人の移動の系譜 留学、『帰国』から結婚、出稼ぎへ(パネル:インドネシア華人の国際移動と20世紀アジアの動態) 東南アジア学会第89回研究大会、2013年6月2日、鹿児島大学郡元キャンパス。

⑧横田祥子、商業的国際結婚の戦略:インドネシア西カリマンタン州シンカワン市一帯の事例、2014年度日本華僑華人学会研究大会、2014年11月30日、早稲田大学。

⑨Yokota, Sachiko. Remigration to "Free China": the Political Decision for Indonesian Chinese. *Celebrating 20 Years of SEASREP and Southeast Asian Studies, 2015 Southeast Asian Studies Regional Exchange Program 20th Anniversary International Conference*, November 4-5, 2015. Gajah Mada University, Indonesia.

⑩Yokota, Sachiko. Cross-border Marriage Migration Between Indonesian Hakka Women

and Other Area's Chinese Men Global Householding of Singkawang, West Kalimantan, Indonesia. The Fourth Taiwan International Conference on Hakka Studies. September 11, 2016. National Chiao Tung University, Hsin-chu, Taiwan.

〔図書〕(計13件)

北村由美(編) 京都大学附属図書館、『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』、2017、316。

片岡樹(分担執筆) 京都大学附属図書館、『もうひとつの海峡世界』から見るインドネシア華人の移住、215-240頁、北村由美編『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』2017、315。

Serizawa, Satohiro (分担執筆). Singapore: World Scientific, Japanese Buddhism and Chinese Sub-ethnic Culture: Instances of a Chinese Buddhist Organization from Shantou to Vietnam. pp. 311-327. Tan Chee-beng (ed.) *After Migration and Religious Affiliation: Religions, Chinese Identities and Transnational Networks.*, 2014.

芹澤知広(分担執筆) 京都大学附属図書館、香港新界元朗とインドネシア華人の移動、144-163頁、北村由美編『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』、2017、316。

Tsuda, Koji. Tokyo University of Foreign Studies. Batiks dyed with 'Chineseness': On ethnic Chinese and their cultural representation in Post-Soeharto Indonesia. Pp. 225-267. Ikuya Tokoro (ed). *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa*, 2015.

津田浩司・櫻田涼子・伏木香織編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『「華人」という描線 行為実践の場からの人類学的アプローチ』、2016、386。

山口裕子・金子正徳・津田浩司(編) 風響社、『「国家英雄」が映すインドネシア』、2017、333。

奈倉京子(分担執筆) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、つなかりに生きる「チャイニーズ」の"roots"と"routes"に関する考察、191-216頁、津田浩司・櫻田涼子・伏木香織編『「華人」という描線 行為実践の場』、2016、386。

奈倉京子(分担執筆) 行路社、帰国華僑ネットワークの拡大と華人新世代の新たな移動から見る『僑郷』の変容、193-236頁、川口幸大編『僑郷 華僑のふるさとの表象と実像』、2016、314。

中谷潤子(分担執筆) 京都大学附属図書館、グローバル時代に日本へ移動する若手インドネシア華人、241-256、北村由美(編)『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』、2017、316。

横田祥子(分担執筆) 京都大学附属図書館、台湾に移住したインドネシア華人のライフヒストリー：中華民国への『帰国進学』と結婚移住、北村由美編著『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』、2017、316。

横田祥子、原めぐみ(分担執筆) 慶應義塾大学出版会、表象としての「女性」、宮原暁編著『東南アジア地域研究入門2 社会』、2017、356。

横田祥子(分担執筆) 明石書店、第26章新移民、第27章人間関係とコミュニティ、第53章東南アジアとの関係、赤松美和子、若松大祐編著『台湾を知るための60章』、2016、384。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://project-archives.org/2012b/>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

北村 由美 (KITAMURA, Yumi)  
京都大学・附属図書館・准教授  
研究者番号：70335214

### (2)研究分担者

片岡 樹 (KATAOKA, Tatsuki)  
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授  
研究者番号：10513517

芹澤 知広 (SERIZAWA, Satohiro)  
奈良大学・社会学部・教授  
研究者番号：60299162

津田 浩司 (TSUDA, Koji)  
東京大学・総合文化研究科・准教授  
研究者番号：60581022

奈倉 京子 (NAGURA, Kyoko)  
静岡県立大学・国際関係学部・講師  
研究者番号：70555119

横田 祥子 (YOKOTA, Sachiko)  
滋賀県立大学・人間文化学部・助教  
研究者番号：80709535

### (3)連携研究者

中谷 潤子 (NAKATANI, Junko)  
大阪産業大学・教養部・准教授  
研究者番号：20609614

### (4)研究協力者